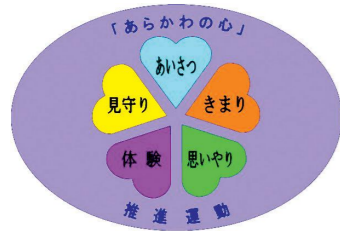


「あらかわの心」ニュース



「あらかわの心」推進運動シンボルマーク

今号では、第11回を迎えた「あらかわの心」カルタ大会の様子や、参加団体の活動報告についてお届けします。



あらかわ
©荒川区2010 # (31-0023) あらみい
©荒川区2012 # (31-0023)

第28号
令和2年
3月2日発行



みんなで集合写真



集中して真剣勝負！

競技終了後、上位入賞者(各クラス1〜8位)にはメダルが贈呈されました。

令和2年2月9日(日)、生涯学習センターで第11回「あらかわの心」カルタ大会が開催されました。このカルタ大会は、「あらかわの心」カルタを使用して対戦するもので、カルタ遊びを通して「あらかわの心」推進運動について理解を深めてもらうことを目的としています。当日は学年ごとに、未就学児の部、低学年の部、高学年の部にクラス分けされ、対戦を行いました。ルールを守りながら、64名の参加者がメダル獲得を目指して熱い戦いを繰り広げました。また、参加者だけでなく、家族や友達の声援も会場に響き渡り、白熱した大会となりました。



「あらかわの心」カルタ大会

また、今回で通算6回目の参加となった児童には、「あらかわの心」賞として、あらかわグッズが贈呈されました。カルタ大会へ参加することで、子どもたちは「あらかわの心」とは何かを深く知ることができ、これからも、カルタ大会を通して「あらかわの心」推進運動の輪が広がるよう、普及・啓発活動が続けていきたいと思います。

各部の優勝者及び「あらかわの心」賞の受賞者は左記のとおりです。

「優勝」

- ・未就学児の部
中北 怜愛さん(黒川幼稚園)
- ・小学校低学年の部
中北 夕愛さん(第四峡田小)
- ・小学校高学年の部
高谷 里沙さん(尾久西小)

「あらかわの心」賞

- 浅田 風香さん(汐入東小)
- 桂 義陽さん(汐入小)
- 中田 夢梨さん(根岸小)
- 東里 佑成さん(尾久小)
- 東里 琉成さん(尾久小)



荒小P連OB会創立30周年記念総会・懇親会



▲当日の様子

令和元年11月26日(火)、サンパール荒川において、創立30周年記念総会・懇親会を開催いたしました。総会では、平成30年度事業報告と決算報告、また令和元年度事業計画案、予算案が承認され滞りなく終了しました。当日は、荒川区長の西川太一郎様をはじめ、多くの御来賓と会員がお越しくださいました。

総会終了後の公演では、アルパ奏者の塩満友紀氏によるミニコンサートが行われました。アルパとは、スペイン語でハーブを意味する言葉で、リズムカールで陽気なテンポの曲が演奏され、会場を和ませてくださいました。

懇親会では、南千住、峡田、尾久、日暮里の各地区による自己紹介を行い、当時の思い出や今に至る熱い思いなど、皆さんユーモアを交えてお話をされ、有意義な楽しい時間を過ごすことができました。

「あらかわの心」推進運動とは

「あらかわの心」推進運動は、大人が自ら認識し実践することによって、青少年の心を育もうとする、区民の皆様が主体となって推進していく区民運動です。「あらかわの心」推進運動では、「まず大人が行動すること子どもが本となり、「大人と子どもが一緒に行動」し、「地域ぐるみで子どもを見守り育てる」という3つの視点に基づき、取り組みを進めています。具体的には、「あいさつ、きまり、思いやり、体験、見守り」という「心をつなぐ5つの取り組み」を実践しています。

出前説明会とPR寸劇の申し込みは事務局まで

「あらかわの心」推進運動では、普及・啓発のため、学校や諸団体へ、出前説明会や寸劇などのPR活動をしております。ご希望の方は事務局までご連絡ください。



◀PR寸劇の様子

クイズとアンケートの両方にお答えください。正解者の中から5名の方にぬりえ付き「あらかわの心」ノートをプレゼント致します。郵送かメールで応募してください。

所、氏名、電話番号、クイズの答えとアンケートをご記入の上、下記までお送りください。

メール件名：あらかわの心「クイズ/アンケート」係
Eメール：arakoko@city.arakawa.tokyo.jp

● 郵送の場合

はがきに、住所、氏名、電話番号、クイズの答えとアンケートをご記入の上、下記までお送りください。

〒116-8501
東京都荒川区荒川2-2-3
荒川区児童青少年課内
あらかわの心ニュース
「クイズ/アンケート」係

● メールの場合

メールの件名を下記のようにして、住

第28号 令和2年3月2日発行
発行「あらかわの心」推進運動区民委員会事務局
〒116-8501 荒川区荒川2-2-3 (荒川区児童青少年課内)
TEL.03-3802-3111(内線3833) FAX.03-3802-3174
<Eメール> arakoko@city.arakawa.tokyo.jp
<ホームページ> https://www.city.arakawa.tokyo.jp/kosodate/kyoiku_seishonen/suishinundo/index.html

クイズ

〇〇の中に入る言葉は何でしょう?
「あらかわの心」推進運動は、「あいさつ、きまり、思いやり、体験、見守り」という「心を〇〇〇5つの取り組み」を実践しています。

アンケート

- ① このニュースはどこで手に入れましたか。
- ② もっとも興味・関心をもった記事は何ですか。
- ③ その他、ご意見・ご感想等がありましたら、お願いします。



「あらかわの心」ノート (表紙) (裏表紙)

みんなで楽しめた大運動会

青少年育成荒川地区委員会は、毎年秋に親善スポーツ大会としてビーチボール大会を行ってききましたが、今年は趣向を変えて、大人も子どもも、運動神経の良い人も、それなりの人も、みんなが楽しめる「大運動会」を開催しました。



▲大玉ころがし

令和元年10月14日（月）、大運動会当日は、あいにく雨天となったため、峡田小学校アリーナで実施となりました。

競技は全部で15種目。運動会といえば定番の障害物競走、借り物競争、大縄跳び、玉入れなどのほか、スポーツ推進委員の協力を得てポッチャ、ピロポロ、フットサル、ヘルスバレーボールなどといった競技も体験することができました。

参加者全員が赤、白、黄、青、緑、オレンジの6チームに分かれて競い合いましたが、勝ち負けにかかわらず、未就学児から高齢者まで、全員でよい汗を流し、秋の一日を楽しみました。

青少年育成荒川地区委員会

第43回 町屋こどもまつり

令和元年10月27日（日）、第七峡田小学校で「第43回町屋こどもまつり」が行われました。

「子どもランド」では、子どもたちはラリーカードを片手に紙コップロケットや射的など10ブースの製作・ゲームコーナーを回り、自分で作ったビニールエコバックに景品をいっぱい詰め、満足そうでした。

ステージでは、ここにこそすくーる・ふれあい館の子どもたちのダンス発表が行われました。幼児ダンスサークルの発表では「かわいい」と歓声が上がリ、小学生のダンス発表では、子どもたちはこの日のために一所懸命練習してきた成果を出し切ることができ、達成感に満ち溢れていました。観客席からはたくさん拍手をいただき、会場が一体と



なっていたのが印象的です。子どもたちのために地域の方々が力を合わせてくださったおかげで、笑顔いっぱいの「町屋こどもまつり」となりました。

町屋ふれあい館

第四峡田小学校避難所開設運営訓練

令和元年11月10日（日）、第四峡田小学校を会場として、関連4町会（二仲、実揚、一・二仲、東栄）の合同避難所開設・運営訓練を実施しました。この訓練は、大地震等が発生した際に、多くの方々が寝泊りする避難所を地域住民が主体となって開設・運営するために行つたものです。

今回の訓練では、避難所を運営するために正副本部長を始め各役割の責任者を決めたり、避難所として建物は安全か、授乳室をどの教室にするか等の課題を解決したり、避難所にいる人数や要介護者の有無などを把握して災害対策本部に無線で報告したりしました。他には、炊き出し、災害時のトイレ、簡易間仕切りや段ボールベッドの組み立て等も体験しました。

毎年、五峡小・七峡小・九峡小でも訓練を継続しますので、来年はより多くの方々に参加していただき、助け合いの輪が更に広がることを期待しています。



▲訓練の様子

町屋町会連合会 高梨 一彦

ずっと変わらないものとして「尾久消防少年団発団40周年記念式典」

令和元年12月15日（日）、尾久ふれあい館において、尾久消防少年団発団40周年記念式典を挙行しました。

式典では、これまでの功績に対する指導者表彰と、日頃の少年団活動に様々な協力をお願いしている団体や個人に対し、感謝状の贈呈が行われました。

団員の演技披露では、少年団で身につけた知識を盛り込んだ寸劇を行いました。火災を発見し、通報、けが人の手当てまでの一連の流れを、セリフや動作を取り入れながら行い、最後は基本の結索を披露しました。



▲集合写真

環境は日々変化しています。そのよくな変化の中でも当団は「ずっと変わらないもの」として、在団員のみならず、卒団員の心の中にもずっと在り続けてほしいと願います。

尾久消防署

南千住地区委員会と町会青少年部長による懇談会

令和元年11月11日（月）、初となる南千住地区委員会と地元町会の青少年部長による懇談会が開催されました。



▲懇談会の様子

当日は37名が参加し、各青少年部長から活動内容など貴重なお話を伺うことができました。

それによると、各町会の活動は天王祭（祭礼）や盆踊りが中心ですが、中にはバスハイク・餅つき・防災訓練・歳末警戒（夜警）等、地域によって趣向を凝らした活動も行っているそうです。

その一方で、地域の高齢化・人手不足・資金不足など切実な問題が既に起きている地域、今後起こると思われる地域もあり、大きな課題であると感じました。

幸いなことに南千住地区には多くの子ども達が住んでいます。町会青少年部として、子どもたち・地域の皆さんに今まで以上に魅力あるイベントを提供し、町会・地域に興味を持ってもらうきっかけになれば嬉しいと思います。

そして、我々も新規部員を増やし、後継者を育て活動を継続していこうと思った会となりました。

荒川区青少年育成南千住地区委員会 後藤 晋輔

第2回 子コミュニティフェスタ

令和元年12月7日（土）、ゆいの森あらかわで第2回子コミュニティフェスタが開催されました。地域で子育てに関わり、荒川区地域教育向上支援事業に参画した団体が、日頃の活動を紹介しました。

例えば、参加団体のひとつである「親子リズムの会」は、荒川区内の小学校の体育館で年に3、4回赤ちゃんから就学前くらいの親子で、楽しく体を動かしています。今回は、活動の様子を動画でアピールしました。（親子リズムの会）でFacebookがありますので、是非ご覧ください）

それ以外の団体には、折り紙達人の指導教室や、石に絵を描く石アート、紙芝居や子ども達の講演発表会、絵本作家の読み聞かせなどがあり、特に小学校低学年までのお子さんとその家族にとって楽しいものになったと思います。



▲子コミュニティフェスタの様子

今回からは、台風被害の子どものための募金もスタート。親子で楽しみながらも、困っている所への思いを形にする、という姿も見せることができました。

※寄稿にあたっては、親子リズムの会の秀島佐代子さんに多大なご協力をいただきました。

第2回子コミュニティフェスタ実行委員会 山崎 律子